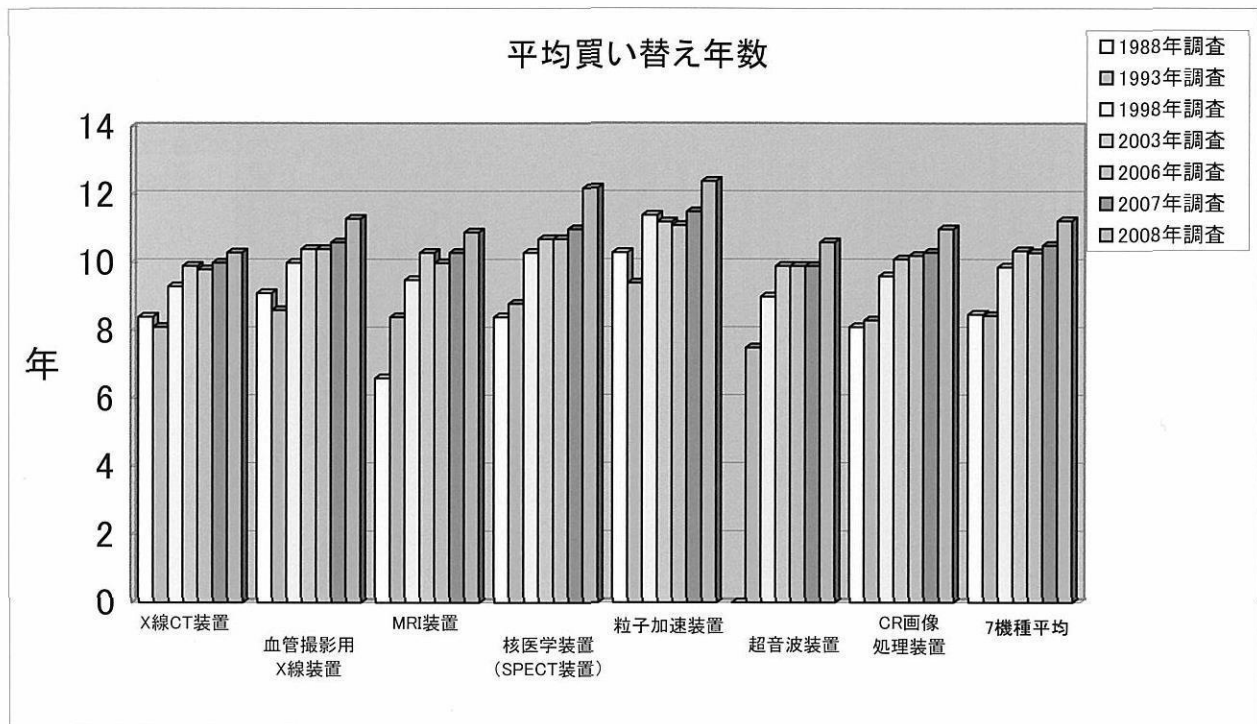


## 平均買い替え年数

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
	1988年調査	1993年調査	1998年調査	2003年調査	2006年調査	2007年調査	2008年調査
X線CT装置	8.4年	8.1年	9.3年	9.9年	9.8年	10.0年	10.3年
血管撮影用X線装置	9.1年	8.6年	10.0年	10.4年	10.4年	10.6年	11.3年
MRI装置	6.6年	8.4年	9.5年	10.3年	10.0年	10.3年	10.9年
核医学装置(SPECT装置)	8.4年	8.8年	10.3年	10.7年	10.7年	11.0年	12.2年
粒子加速装置	10.3年	9.4年	11.4年	11.2年	11.1年	11.5年	12.4年
超音波装置	-年	7.5年	9.0年	9.9年	9.9年	9.9年	10.6年
CR画像処理装置	8.1年	8.3年	9.6年	10.1年	10.2年	10.3年	11.0年
7機種平均	8.5年	8.4年	9.9年	10.4年	10.3年	10.5年	11.2年
*参考 7機種平均(上限12年以上の場合)							10.9年



代表的7機種の「平均買い替え年数」は、1993年(第2回)調査を境に延長傾向を示しており、調査開始時点から平均値で2.7年の延長となっているが、MRI装置でみると4.3年の大幅な伸びとなっています。

2003年調査で平均で10年以上となった買い替え年数は、今回の2008年調査では更に延長して11年の壁を突破し、最も短いX線CT装置でも10.3年となり、核医学のSPECT装置や治療用の粒子加速装置は12年超の長期使用となっています。(第6回までは、選択肢の上限が「12年以上」であったが、今回は「16年以上」と延長したため、制限されていた買い替え年数が大幅な延長となっています。)

なお、表の「7機種平均(上限12年以上)」の値は、第7回の上限16年以上までのデータを上限12年以上に換算した場合の参考数値を示しています。